# (5)特別支援教育研究会(通常学級)

会 長 佐田 有里 (具同小) 副会長 宗﨑 幸枝 (中村小) 事務局 小島 法 (県立中村中)

# 1. 研究主題 「一人ひとりに応じた支援を通して、子どもたちが生き生きと学べる授業づくり」

#### 2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和4年	四万十市教育研究会 組織総会	市立中村中学校	27名参加
5月6日(金)	内容:役員選出、研究主題設定、年間計画		
8月5日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会	県立中村中学校	24名参加
	内容:講義・演習		
	講師:松本秀彦 教授(高知大学大学院)		
	弘田幸嗣 教諭 (市立中村中学校)		

# 3. 夏季研修会より(学びや気づき等) ※一部抜粋

#### 講義

- ・「発達障害の理解と支援」という講話でしたが、問題点をはっきりさせ、アプローチの方法を具体的 に考えることができました。
- ・本人と話して決める、決めたことを共有し、できたことを視覚化し、ほめるを続けていくことが大 事だと思いました。
- ・発達障害(特に ADHD) について改めて知ることができました。「話を聞く」ができない理由に気が 散る、ワーキングメモリーが小さい、ジョイントアテンションが弱い、音が正確に認知できないの 4つがあることを理解できました。
- ・子どもの行動を ABC 分析で考えることで行動の意味や本人への手立て、教師の指導など必要なこと が見やすくなりました。実際に活用してみたいと思います。
- ・教員の"知識"がとても重要だと感じた。ついつい"経験"でものを言ってしまいがち、考えてしまいがちなので気をつけたい。
- ・教師が一生懸命考えるのも大切だが、それよりも大切なことは「本人の思い」だと改めて思った。 その子と話し合いをするためには、関係ができていないといけないので、ポジィティブな言葉がけ を意識しながら関係を築いていきたいと思った。
- ・子どもの困り感やしんどさ、その要因となっていることを取り除く(カバーする)支援方法がまだたくさんあると思いました。できないことをできるにしていく手立て、方法を前向きに考えていくことが、その子の支援になるとともに他の子どもの支援にもつながっていくと感じました。
- ・具体例をあげた基礎知識と支援についての講話で、教室の子どもの姿と重ねながらお話を聞くことができました。理解はしていても、上手く対応できないことも多いのですが今日の講話で2学期からまた頑張ろうと思えました。
- ・支援を必要とする子の見方や支援方法について教えていただき、2学期からのヒントをたくさん得ることができた。

# 演習

- ・「ブリーフミーティング」ということを初めて知りました。実際はその子のことをよく分かっている 先生が集まると思うので、もっと活発にできることがイメージできました。準備等も必要ないので、 活用できそうです。
- ・支援会を短く効果的に行うために日々色々試していますが、ブリーフミーティングというものがあるのを知れて良かったです。長期目標や短期目標を考えた後だと対応策を考えやすかったです。自校でもすすめてみようと思いました。
- ・初めて模擬支援会というものを経験しました。校内でも支援会があり、資料を準備していたので、 話し合いをホワイトボードに書き、写真に残していくことは業務改善の面においてもいいと思った。 みんなで困り感を共有し解決策を考えることで、目標の共通理解を図ることができ、担任一人だけ でなく協力して支援することができると思った。
- ・大人も見通しが持てると参加しやすいことがわかりました。
- ・事前の準備なし、皆で考え、担任が決めるを短時間でできるのがいいと思いました。早速、本校の コーディネーターに伝えて、改善していきたいと思いました。
- ・30分という決められた時間で、見通しを持ってできる所がいいなと思いました。今までは現状報告ばかりで実りの少ない会もあったのですが、この方法なら具体的な解決策が出せそうです。
- ・改めて、一人でなく複数で考える、チームで対応することの重要性を確認できた。
- ・コンパクトにまとまった支援会の在り方を教えてもらった。働き方改革の一つだと思う。子どもと 担任、どちらも支援できる支援会だった。

# 4. 今年度の成果と課題

#### ●課題

・研修会としては1回のみの実施で終わってしまった。来年度は冬季研修会を実施し、最低2回の 実施にしてみてはどうか?

#### ○成果

・講義、演習ともに具体的でわかりやすく、明日から使える充実した内容であった。来年度も引き続き、同じ講師の先生方にお願いし、四万十市の成長を見届けてもらいたい。今年度、共通理解したことを実践してみて、検証を行い、新たなアクションとして何ができるのかを話し合い、サイクルを回していきたい。



